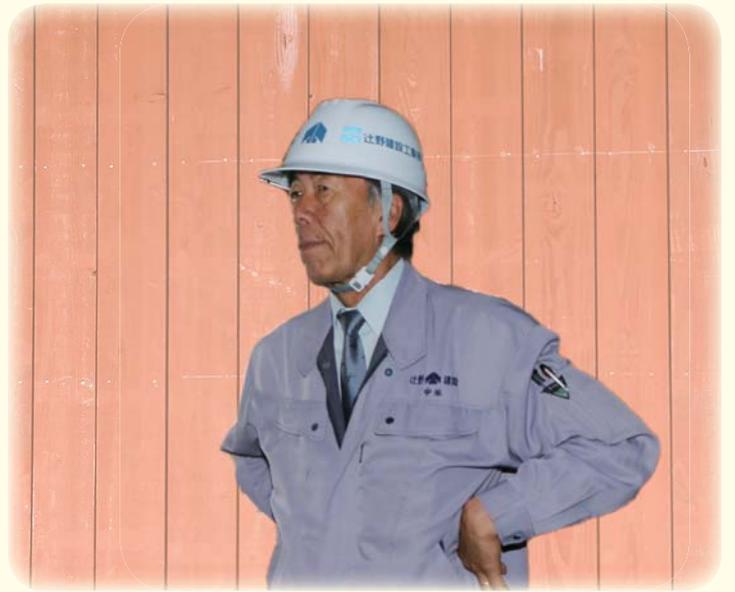


道の駅建設現場をもっとも熟知する！

なかつか のりまさ
中塚 憲政 さん

道の駅本体工事の現場代理人を務める辻野建設工業株式会社の中塚さん。本体工事についてお話しをうかがいました。



現場代理人の仕事とは

建設業に就いて41年目になります。過去に携わった工事には、町内の小・中学校やゆとろ、西当別コミュニティセンター建設工事など、さまざまな現場に関わってきましたが、道の駅建設のような大きな工事は会社単独では初めてです。工事が大きくても小さくても仕事の内容は変わりませんが、唯一変わるのには工事にかかわる専門職などの人数です。建設現場には、とび職、型枠大工、木造大工、左官、板金やタイル、サッシ職人その他にもたくさんの専門職が作業しますが、「それらの専門職がいつのタイミングで入るのかを現場の進行状況を把握しながら調整する」のが、現場代理人の主な仕事です。

特殊な本体の構造

珍しい工事を今回初めて経験しました。この建物は木造にこだわっていますが、通常の木造建築は建物の基礎部分だけをコンクリートで施工します。しかし、道の駅本体建物の一部では基礎から1階の天井部分まで続けてコンクリート

の柱にしている部分があるんです。この部分は、万が一、水害に遭った場合に一時避難が可能な外付けのデッキを守るための柱となっています。コンクリートと木造のように異種構造がある工事は大変な作業でしたが、大変勉強になりました。

完成間近で振り返る

6月末に本体工事の完成を予定していますが、現在は約9割の工程が終了しています。これまでの工事で大変だったことは、1・2月の風と雪との戦いですね。風の強い日には建築物にかけてあるシートが破れてしまったり、シートのすき間などから雪が入り込み、雪を取り除く作業に時間を費やしたために数日間作業が遅れたことや、吹雪などの悪天候で全く作業ができない日もありました。今年は例年より雪は少なかったものの、冬の現場は大変なものでした。

道の駅完成で楽しみなこと

正面玄関に入ると、アトリウムの大規模な空間が広がります。北

欧をイメージさせるベンガラ色の外壁と三角屋根の内部には、自然の光を多く取り込むための大きな窓と高い天井が生む大空間が特徴の建物です。現在、このアトリウム部分には、天井に届く程の足場が組んであります。もうすぐこの足場を撤去しますが、障害物がなくなってアトリウムの大空間を見渡すのが今の一番の楽しみで、この瞬間は建築冥利に尽きます。また、建物は完成して終わりではなく、引き渡した後の付き合いが長いもので、その建物が喜ばれて使われているかも気になります。今回の建設は公共施設工事としては珍しく、完成後には商売をする場所として使われます。もちろん道の駅にはたくさんの人に来てもらって、賑わって欲しいです。テイクアウトコーナーやレストランにどんなメニューが並ぶのかも楽しみです。

取材中も工程調整の電話対応で大忙しだった中塚さん。「これが自分の仕事。この調整のためにいる」と中塚さんは笑顔でお話してくださいました。完成を楽しみにしています。（5月22日取材）